



「人権週間」に思うこと。

早いもので、気がついたら師走になっていました。冬休みも、もうすぐです。

ところで、12月4日～10日は、「第69回 人権週間」です。これは、国際連合が世界人権宣言が採択された12月10日を「人権デー」としたことを記念して、法務省と全国人権擁護委員連合会が定めたものです。

人権週間の取組として、本校では、各学級で人権に関するビデオを視聴して話し合ったり、校長が講話を行ったりしています。本年度の校長講話は、「わたしのせいじゃないーせきにんについてー」（レイフ・クリスチャンソン 文、二文字理明 訳、岩崎書店）という絵本を読みました。

この本は、学級の子供が一人ずつ出てきて、友達のいじめに加わったことや見ていたけど何もしなかったことなどを打ち明け、最後にこう言うのです。「わたしのせいじゃない。」

いじめられている友達はかわいそうだけど、自分には関係ないこと（たとえ自分もいじめに加わっていたとしても）。悪いのは自分以外の誰か。 という「無関心さもよくないことだ」という作者の主張が感じられる本です。 子供たちを見ていると、往々にしてそんな感じを受けることがあります。



「学校のやすみじかんに あったことだけど わたしのせいじゃないわ」
「はじめたのは わたしじゃない ほかのみんなが たたきはじめてのよ
わたしのせいじゃないわ」 （「わたしのせいじゃない」より）

この本が出版されたのは、1996年。スウェーデンの人が書きました。ということは、ずいぶん前から、世界中でそんな傾向が見られたのでしょうか。

子供たちには紹介しませんが、この本には続きがあって、巻末に写真が掲載されているのです。その写真は、原爆、飢えに苦しむ子供、戦争などの難民、石油まみれになった鳥、ゴミの山に群がるたくさんの鳥たち、武器を持った子供などです。作者は、「（これらのことは、）遠いところで起こっていること。私には関係ない。」という大人の無関心に警鐘を鳴らしているのだと感じました。

そう言えば、アメリカが、地球温暖化を防ぐパリ協定からの離脱を表明しました。「みんなで協力して、大きな目的を達成しよう」という動きは、止まってしまったのでしょうか。そんな意識は、世界中の大人からも無くなってしまったのでしょうか。 「自分が良ければそれでよい。」「人のことは、関係ない。」世界中の大人も子供も、そんな風になってしまったのでしょうか。

… いや、決してそんなことはないでしょう。

「みんなはひとりのために、ひとはみんなのために…」という歌がありました。「友だちはいいもんだ」という歌です。 そういう学級、そういう学校、そういう世界にしたいと願っています。